

■集計

以下の協働事業自己チェックリストの集計は事務局担当者が行います。

(1) 事務局担当者は、集計結果をチェックリスト記入者全員に配布してください。

(2) 集計シートの小項目で「はい」が多い・少ないのは、共通認識ができていないか、あまり共通認識となっていないかの度合いを表します。

認識できている小項目と認識されにくい小項目を確認します。

認識されにくい部分については、各責任者【*】から全員に説明を行った上で、認識のすり合わせができるように話し合ってください。

【*責任者】大項目Ⅰに関しては組織のリーダー、Ⅱはプロジェクトリーダー、Ⅲは事務局主担当
役割を兼任している場合は、あえて分けて説明していただくことはありません。

協働事業自己チェックリスト 集計シート

記入者数N=2

項目	小項目	はい	いいえ	?	合計
Ⅰ. 協働の前提	1. 地域の将来像と事業とのマッチング	2			6
	2. 協働のカタチ	2			
	3-①役割と責任	1	1		
	3-②コミュニケーションと合意形成	1	1		
	3-③意思決定と指示系統	1	1		
Ⅱ. 事業	1. 事業の目的	2			10
	2. 事業の成果	2			
	3. 成果の帰属	2			
	4. 事業の完了時期	2			
	5. 事業後の展望	2			
Ⅲ. 事業実施体制	1. 業務分担	1	1		7
	2. 費用分担	2			
	3. 情報共有	1	1		
	4. 問題発生時の体制	1	1		
	5. スケジュール管理と進捗確認	1	1		

NPOと行政の 協働事業自己チェックリスト

[中間期]

このチェックリストは、
「市民と行政」が行う「協働事業」を
「事業に中心的に関わっている人」が、
事業の企画から実施段階の途中の「中間期」に
「セルフチェック」を行うためのシートです。

所属組織名称：志摩サイバーベースプロジェクト

記入者氏名：山野 保巳

記入年月日：平成 17 年 3 月 14 日

協働事業の名称：チャレンジド自立支援事業(eふおーらむ)

■はじめに

以下のチェックリストの設問を読み、現在、行われていると思うものには はい、
 行われていないと思うものには いいえ、わからないものには ? を選び、回答を
 ○で囲み（データに直接入力の場合は、 内を灰色で塗りつぶす）、チェックしてください。

I. 協働の前提

1. 地域の将来像と事業とのマッチング

はい	いいえ	?
----	-----	---

事業を始める時に両者で話し合った、事業終了後の地域や社会に与える影響 [課題解決・社会変革] の予測や可能性は、事業途中になっても変更はありませんか？

[ビジョン]

さまざまな障害を持つ人びとが、それぞれの持つ到達目標に向けてeふおーらむが支援活動を行い、最終的に個々にあった仕事をしていくことの実現を目指します。

2. 協働の形態

はい	いいえ	?
----	-----	---

この事業にとって最適と思われる協働の形態 [委託・補助・助成・共催・協力・実行委員会・その他] を両者で話し合って選択することができましたか？

[現在の協働の形態]

会費として300万円の負担をするとともに、県職員がプロジェクトリーダーとして組織の運営に関わり、事務所は志摩サイバーベースプロジェクトの分室として位置付けたアスト津11階の一室を間借りしています。

eふおーらむが在宅就労支援事業を実施するための支援策として、県は「障害者SOHO支援事業」を立ち上げ、障害者の能力開発を目的としたweb作成などの業務発注を行いました。

3. 対等な関係

お互いに依存することなく、事業実施に主体的かつ積極的に取り組む姿勢でのぞみ、お互いの考え方や立場の違いを理解し、多様な価値観を認め合いながら、対等と思える関係を話し合いによって築くことが、事業をより効果的に実施していくために重要です。

① 役割と責任

はい	いいえ	?
----	-----	---

この事業を効果的に実施する上で必要となる資源(人・物・予算・情報)を話し合い、それぞれが適切な役割とそれに見合う負担をするなど、適した役割を担い、共に事業を実施している認識を持って責任を果たしていますか？

② コミュニケーションと合意形成

はい	いいえ	?
----	-----	---

お互いに事業に関わる情報を提供し合い、事業の方向性の確認や事業内容の変更について意見を交換するなど、必要と思えることをいつでも話し合える手段を持ち、また、機会や場をつくるなどして合意形成に努めていますか？

③ 意思決定と指示系統

はい	いいえ	？
----	-----	---

お互いに相手の意思を尊重した合意形成に基づく意思決定の方法を検討し、速やかに意思決定を行える体制があり、指示が問題なく伝達されていますか？

上記「はい」と答えた合計	2
--------------	---

II. 事業

1. 事業の目的

はい	いいえ	?
----	-----	---

事業を始める時に両者で話し合った事業の目的は、現在、事業全体の指針として全員に意識され、目的に沿った事業内容となっていますか？

[事業の目的]

eふおーらむを平成14年度から16年度までの時限プロジェクトとし、その間に障害のある人が、ITを積極的に活用して「参加と自立」を達成していくための「自立支援マネジメントシステム」を創りあげる。(eふおーらむマスタープランから)

2. 事業の成果

はい	いいえ	?
----	-----	---

事業を始める時に両者で話し合った成果目標は、現在、事業全体のゴールとして全員に意識され、事業終了時に達成が期待できますか？

[事業の成果目標]

障害者自立支援マネジメントシステムの確立と、それに伴う一般、在宅雇用とSOHOの実現。

3. 成果の帰属

はい	いいえ	?
----	-----	---

事業終了時における具体的な成果(物)とその帰属について、両者で話し合い、合意が取れていますか？

[具体的成果]

障害者(チャレンジド)が自ら働き、収入を得ることで、在宅就労・雇用等につなげること。

[帰属]

eふおーらむ(登録ワーカー)

4. 事業の完了時期

はい	いいえ	?
----	-----	---

事業を始める時に両者で話し合い設定した事業期間が、期待された成果目標を達成するために適切であったかどうかを話し合い、事業完了時期の合意が取れていますか？

5. 事業後の展望

はい	いいえ	?
----	-----	---

協働事業終了後に、この事業が今後どのような形で続いていくことが望ましいか、事業が地域や社会に与える影響[課題解決・社会変革]について考慮し、社会的な責任を果たしていく体制などを両者で検討していますか？

[事業後の展望・方向性]

チャレンジドと雇用する側の両方及びそれを取りまく関係者の関心が十分高まることを一定の成果と位置付け、達成できた時点で法人化し、自立する。

上記「はい」と答えた合計	5
--------------	---

Ⅲ. 事業実施体制

1. 業務分担

はい	いいえ	?
----	-----	---

事業開始の際にお互いに取り決めた事業実施にともなう業務分担は、お互いにとって納得のいくものであり、予想外に負荷がかかる場合については、両者で話し合いの上、変更するなどの対応を図っていますか？

2. 費用分担

はい	いいえ	?
----	-----	---

事業開始の際にお互いに取り決めた事業実施にともなう費用分担は、お互いにとって納得のいくものであり、予想外に費用がかかる場合については、両者で話し合いの上、費用分担の変更や外部からの資金調達などの対応を図っていますか？

3. 情報共有

はい	いいえ	?
----	-----	---

事業を円滑に実施するために、事業に関する情報を入手後、スピーディーかつ積極的に協働のパートナーに提供し、情報共有に努めていますか？

4. 問題発生時の体制

はい	いいえ	?
----	-----	---

事業実施に関して問題が発生した場合は、速やかに両者で問題について情報共有し、解決に向けた話し合いを行ったり、解決できない場合は第三者を交えて協議するなどの体制はありますか？

5. スケジュール管理と進捗確認

はい	いいえ	?
----	-----	---

この事業を準備・実施するにあたり、関係者間で業務遂行の時期が明確になっており、進捗状況を互いに連絡し合い、効果的な進め方ができているかを確認する体制があり、対処できていますか？

上記「はい」と答えた合計	1
--------------	---

NPOと行政の 協働事業自己チェックリスト

[中間期]

試作品

このチェックリストは、
「市民と行政」が行う「協働事業」を
「事業に中心的に関わっている人」が、
事業の企画から実施段階の途中の「中間期」に
「セルフチェック」を行うためのシートです。

所属組織名称：eふぉーらむ

記入者氏名：朝倉

記入年月日：平成 17 年 3 月 18 日

協働事業の名称：チャレンジド自立支援事業

■はじめに

以下のチェックリストの設問を読み、現在、行われていると思うものには はい、
 行われていないと思うものには いいえ、わからないものには ? を選び、回答を
 ○で囲み（データに直接入力の場合は、 内を灰色で塗りつぶす）、チェックしてください。

I. 協働の前提

1. 地域の将来像と事業とのマッチング

はい	いいえ	?
----	-----	---

事業を始める時に両者で話し合った、事業終了後の地域や社会に与える影響 [課題解決・社会変革] の予測や可能性は、事業途中になっても変更はありませんか？

[ビジョン] 働くことに対する障害者の可能性をのばし、雇用等を実現させることによって障害者が自立できる社会に近づくことができる。

2. 協働の形態

はい	いいえ	?
----	-----	---

この事業にとって最適と思われる協働の形態 [委託・補助・助成・共催・協力・実行委員会・その他] を両者で話し合って選択することができましたか？

[現在の協働の形態] 委託 (サポート事業)・助成 (会費)・人 (職員)

3. 対等な関係

お互いに依存することなく、事業実施に主体的かつ積極的にとり組む姿勢でのぞみ、お互いの考え方や立場の違いを理解し、多様な価値観を認め合いながら、対等と思える関係を話し合いによって築くことが、事業をより効果的に実施していくために重要です。

① 役割と責任

はい	いいえ	?
----	-----	---

この事業を効果的に実施する上で必要となる資源 (人・物・予算・情報) を話し合い、それぞれが適切な役割とそれに見合う負担をするなど、適した役割を担い、共に事業を実施している認識を持って責任を果たしていますか？

② コミュニケーションと合意形成

はい	いいえ	?
----	-----	---

お互いに事業に関わる情報を提供し合い、事業の方向性の確認や事業内容の変更について意見を交換するなど、必要と思えることをいつでも話し合える手段を持ち、また、機会や場をつくるなどして合意形成に努めていますか？

③ 意思決定と指示系統

はい	いいえ	?
----	-----	---

お互いに相手の意思を尊重した合意形成に基づく意思決定の方法を検討し、速やかに意思決定を行える体制があり、指示が問題なく伝達されていますか？

上記「はい」と答えた合計	5
--------------	---

II. 事業

1. 事業の目的

はい	いいえ	?
----	-----	---

事業を始める時に両者で話し合った事業の目的は、現在、事業全体の指針として全員に意識され、目的に沿った事業内容となっていますか？

<p>[事業の目的]</p> <p>ITを使った障害者の自立支援。とりわけ就労の機会を情報や実際の在宅ワークで提供することによって訓練を図り、雇用につながる支援をしていく。これらの支援の流れを「自立マネジメントシステム」として構築する。</p>
--

2. 事業の成果

はい	いいえ	?
----	-----	---

事業を始める時に両者で話し合った成果目標は、現在、事業全体のゴールとして全員に意識され、事業終了時に達成が期待できますか？

<p>[事業の成果目標]</p> <p>自立支援マネジメントシステムの構築</p>

3. 成果の帰属

はい	いいえ	?
----	-----	---

事業終了時における具体的な成果（物）とその帰属について、両者で話し合い、合意が取れていますか？

<p>[具体的成果（物）] 自立マネジメントシステム</p> <p>[帰属] eふぉーらむ ※ただし課題が多く未完成の状態である。</p>

4. 事業の完了時期

はい	いいえ	?
----	-----	---

事業を始める時に両者で話し合い設定した事業期間が、期待された成果目標を達成するために適切であったかどうかを話し合い、事業完了時期の合意が取れていますか？

5. 事業後の展望

はい	いいえ	?
----	-----	---

協働事業終了後に、この事業が今後どのような形で続いていくことが望ましいか、事業が地域や社会に与える影響 [課題解決・社会変革] について考慮し、社会的な責任を果たしていく体制などを両者で検討していますか？

<p>[事業後の展望・方向性]</p> <p>社会的に必要な事業としてとらえていただけるなら、今後もっと真剣に討議の場を設けていく必要がある。</p>

上記「はい」と答えた合計	5
--------------	---

Ⅲ. 事業実施体制

1. 業務分担

はい	いいえ	?
----	-----	---

事業開始の際にお互いに取り決めた事業実施にともなう業務分担は、お互いにとって納得のいくものであり、予想外に負荷がかかる場合については、両者で話し合いの上、変更するなどの対応を図っていますか？

2. 費用分担

はい	いいえ	?
----	-----	---

事業開始の際にお互いに取り決めた事業実施にともなう費用分担は、お互いにとって納得のいくものであり、予想外に費用がかかる場合については、両者で話し合いの上、費用分担の変更や外部からの資金調達などの対応を図っていますか？

3. 情報共有

はい	いいえ	?
----	-----	---

事業を円滑に実施するために、事業に関する情報を入手後、スピーディーかつ積極的に協働のパートナーに提供し、情報共有に努めていますか？

4. 問題発生時の体制

はい	いいえ	?
----	-----	---

事業実施に関して問題が発生した場合は、速やかに両者で問題について情報共有し、解決に向けた話し合いを行ったり、解決できない場合は第三者を交えて協議するなどの体制はありますか？

5. スケジュール管理と進捗確認

はい	いいえ	?
----	-----	---

この事業を準備・実施するにあたり、関係者間で業務遂行の時期が明確になっており、進捗状況を互いに連絡し合い、効果的な進め方ができているかを確認する体制があり、対処できていますか？

上記「はい」と答えた合計	5
--------------	---

■集計

以下の協働事業自己チェックリストの集計は事務局担当者が行います。

- (1) 事務局担当者は、集計結果をチェックリスト記入者全員に配布してください。
- (2) 集計シートの小項目で「はい」が多い・少ないのは、共通認識ができているか、あまり共通認識となっていないかの度合いを表します。

認識できている小項目と認識されにくい小項目を確認します。

認識されにくい部分については、認識のすり合わせができるように話し合ってください。

- (3) 話し合った結果は、次回の協働事業を実施する際にお役立てください。

協働事業自己チェックリスト 集計シート（完了）

記入者数N=2

項目	小項目	はい	いいえ	?	合計
I. 事業の結果	1. 問題発生時の体制	1	1		3
	2. クレームの吸い上げとフィードバック		2		
	3. 事業実施後の振り返り	1	1		
	4. 成果の達成		2		
	5. 事業の将来展望	1	1		
II. 事業の成果	1. 事業後の受益者とのコミュニケーションと満足度	1	1		6
	2. 事業後の資源提供者とのコミュニケーションと満足度	1	1		
	3. 人々の自立性の向上	1		1	
	4. 新たなネットワーク	2			
	5. 地域や社会に与えたインパクト	2			
III. 実施の結果	1. 協働意識の醸成	1	1		7
	2. 協働の満足度	2			
	3. 協働のコストの分担		2		
	4. 今後の協働の改善	2			
	5. 結果の公開と説明責任	2			

NPOと行政の 協働事業自己チェックリスト

[完了期]

このチェックリストは、
「市民と行政」が行う「協働事業」を
「事業に中心的に関わっていた人」が、
事業終了後、報告書作成段階の「完了期」に
「セルフチェック」を行うためのシートです。

所属組織名称：志摩サイバーベースプロジェクト

記入者氏名：山野 保巳

記入年月日：平成 17 年 3 月 16 日

協働事業の名称：チャレンジド自立支援事業(eいおーらむ)

■はじめに

以下のチェックリストの設問を読み、現在、行われていると思うものには はい、
行われていないと思うものには いいえ、わからないものには ? を選び、回答を
○で囲み（データに直接入力の場合は、 内を灰色で塗りつぶす）、チェックしてください。

I. 事業の結果

1. 問題発生時の体制

はい	いいえ	?
----	-----	---

事業実施に関して問題が発生した場合に、速やかに両者でその問題について情報を共有し、話し合いを行ったり、解決できない場合は第三者に相談するなど、解決を図る体制をつくりましたか？

2. クレームの吸い上げとフィードバック

はい	いいえ	?
----	-----	---

事業実施に関して受益者やドナーから苦情や意見が寄せられた場合に、速やかに両者でその情報を共有し、適切に対応すべく、改善に向けた話し合いを行い、活かすことができましたか？

3. 事業実施後の振り返り

はい	いいえ	?
----	-----	---

事業終了後、当初の企画や実施内容、その結果についてお互いに話し合う機会を持ち、結果の把握と共有に努めるとともに、それぞれの提供した資源（人・物・予算・情報）、役割、負担などに見合う、事業規模、取り組み、結果であったか意見交換を行いましたか？

[結果]

平成17年2月4日にeふおーらむ関係者と地域振興部及び生活部との意見交換会を行いました。その時点で、中間の意見交換が無く、お互いの意思疎通に欠けていたという共通認識から3月16日にeふおーらむのリーダー、スタッフと地域振興部担当との意見交換を行いました。

4. 成果の達成

はい	いいえ	?
----	-----	---

事業を始める時に設定した成果目標は、達成できましたか？

(*成果目標を、両者の間で話し合い、互いに達成を確認していることが前提となります)

[成果]

ITサポートや在宅就労支援に取り組んできたことで、登録ワーカーやそれをサポートするスタッフの育成は成果を上げることができました。

ただし、目標であった障害者自立支援マネジメントシステムの確立とそれに伴う一般、在宅雇用とSOHOの実現については、雇用側である企業や障害者をとりまく状況が未成熟のため、目標としていたレベルに達していません。

5. 事業の将来展望

はい	いいえ	?
----	-----	---

今回行った事業が、今後どのような形で続いていくことが望ましいか、残っている課題や改善策について話し合い、政策提言としてまとめるなど、行政関与の観点も含めて、社会的な責任を果たしていく体制などを両者で検討しましたか？

[課題解決のための改善提案]

県は平成17年度も継続して支援を行うとともに、eふおーらむも自立に向けた体制の見直しを図り、これまで欠けていた対話を重ねながら、障害者の就労支援についてお互いの在り方を検討していきます。

上記「はい」 と答えた合計	3
------------------	---

II. 事業の成果

1. 事業後の受益者とのコミュニケーションと満足度

はい	いいえ	?
----	-----	---

事業終了後、受益者から意見を聴く機会を持ち、この事業を通じて十分な満足を得られたかを確認し、今後の事業につながる良好な関係づくりを行っていますか？

[受益者の満足の声]

別添資料をご参照下さい。

2. 事業後の資源提供者とのコミュニケーションと満足度

はい	いいえ	?
----	-----	---

事業終了後、報告書や決算書などを作成し、納税者を含む資源提供者への積極的な情報の提供や公開を行い、また、意見を聴く機会を持ち、事業の結果に十分な満足を得られたかを確認し、今後の事業につながる良好な関係づくりを行っていますか？

[資源提供者の満足の声]

別添資料をご参照下さい。

3. 人々の自立性の向上

はい	いいえ	?
----	-----	---

この事業を通じて、地域の人々が、地域や社会の課題を理解し、自立した市民として、解決のために自発的に行動できるようになりましたか？

4. 新たなネットワーク

はい	いいえ	?
----	-----	---

この事業を通じて、市民や関係する団体、行政の新しいつながりが生まれ、地域に新たなネットワークが出来てきましたか？

5. 地域や社会に与えたインパクト

はい	いいえ	?
----	-----	---

事業を実施することにより、期待された影響 [課題解決・社会変革] を、地域や社会にもたらすことができましたか？

[事業が地域や社会に与えた影響]

別添資料をご参照下さい。

上記「はい」と答えた合計	3
--------------	---

Ⅲ. 実施の結果

1. 協働意識の醸成

はい	いいえ	？
----	-----	---

事業を通じて、事業関係者（行政・市民）の間で、協働への理解が深まり、効果を実感する人が増え、今後、積極的に協働という手法を事業に取り入れ、実施しようという機運が生まれてきましたか？

2. 協働の満足度

はい	いいえ	？
----	-----	---

事業を通じて、事業に関わった人々（行政・市民）は、単独で事業を行った場合よりも、協働で進めたことでより大きな効果を得たと実感し、十分な満足を得ることができましたか？

3. 協働のコストの分担

はい	いいえ	？
----	-----	---

事業を通じて、行政側、市民側、あるいは一部の関係者に、費用、労力・時間等、ある面での負担感が生じたとき、その負担に対する配慮ができていましたか？

[生じた負担感]

一人の県職員に担当業務をまかせてしまい、組織として支援する体制を取れませんでした。

4. 今後の協働の改善

はい	いいえ	？
----	-----	---

この事業を通じて得た、協働事業を行う際の関係づくり、資源（人・物・予算・情報）調達、役割分担、連携等の課題を抽出し、両者で改善を考え、互いに今後の協働事業に活用していきますか？

[改善ポイント]

担当者の関与のしかたを見直すとともに、支援業務の内容についてもeふおーらむと協議することとしています。

5. 結果の公開と説明責任

はい	いいえ	？
----	-----	---

この事業の結果や成果を自己評価や当事者以外の評価によって明らかにし、今後、同じような協働事業の企画・実施にあたっての改善のヒントにするために、地域や社会に対して積極的に情報を公開していきますか？

上記「はい」と答えた合計	4
--------------	---

■集計

以下の協働事業自己チェックリストの集計は事務局担当者が行います。

- (1) 事務局担当者は、集計結果をチェックリスト記入者全員に配布してください。
- (2) 集計シートの小項目で「はい」が多い・少ないのは、共通認識ができているか、あまり共通認識となっていないかの度合いを表します。
 認識できている小項目と認識されにくい小項目を確認します。
 認識されにくい部分については、認識のすり合わせができるように話し合ってください。
- (3) 話し合った結果は、次回の協働事業を実施する際にお役立てください。

協働事業自己チェックリスト 集計シート

記入者数N=

項目	小項目	はい	いいえ	?	合計
I. 事業の結果	1. 問題発生時の体制				
	2. クレームの吸い上げとフィードバック				
	3. 事業実施後の振り返り				
	4. 成果の達成				
	5. 事業の将来展望				
II. 事業の成果	1. 事業後の受益者とのコミュニケーションと満足度				
	2. 事業後の資源提供者とのコミュニケーションと満足度				
	3. 人々の自立性の向上				
	4. 新たなネットワーク				
	5. 地域や社会に与えたインパクト				
III. 実施の結果	1. 協働意識の醸成				
	2. 協働の満足度				
	3. 協働のコストの分担				
	4. 今後の協働の改善				
	5. 結果の公開と説明責任				

NPOと行政の 協働事業自己チェックリスト

[完了期]

試作品

このチェックリストは、
「市民と行政」が行う「協働事業」を
「事業に中心的に関わっていた人」が、
事業終了後、報告書作成段階の「完了期」に
「セルフチェック」を行うためのシートです。

所属組織名称：eふおーらむ

記入者氏名：朝倉

記入年月日：平成 17 年 3 月 18 日

協働事業の名称：チャレンジド自立支援事業

■はじめに

以下のチェックリストの設問を読み、現在、行われていると思うものには はい、
行われていないと思うものには いいえ、わからないものには ? を選び、回答を
○で囲み（データに直接入力の場合は、 内を灰色で塗りつぶす）、チェックしてください。

I. 事業の結果

1. 問題発生時の体制

はい	いいえ	?
----	-----	---

事業実施に関して問題が発生した場合に、速やかに両者でその問題について情報を共有し、話し合いを行ったり、解決できない場合は第三者に相談するなど、解決を図る体制をつくりましたか？

2. クレームの吸い上げとフィードバック

はい	いいえ	?
----	-----	---

事業実施に関して受益者やドナーから苦情や意見が寄せられた場合に、速やかに両者でその情報を共有し、適切に対応すべく、改善に向けた話し合いを行い、活かすことができましたか？

3. 事業実施後の振り返り

はい	いいえ	?
----	-----	---

事業終了後、当初の企画や実施内容、その結果についてお互いに話し合う機会を持ち、結果の把握と共有に努めるとともに、それぞれの提供した資源(人・物・予算・情報)、役割、負担などに見合う、事業規模、取り組み、結果であったか意見交換を行いましたか？

[結果] 資源は最大限に活用できたが、取り組み内容、成果などについての意見交換はできていなかった。

4. 成果の達成

はい	いいえ	?
----	-----	---

事業を始める時に設定した成果目標は、達成できましたか？

(*成果目標を、両者の間で話し合い、互いに達成を確認していることが前提となります)

[成果] 目標である自立マネジメントシステム構築がまだ未完成であり、そのためにクリアすべき問題が明らかになった。

5. 事業の将来展望

はい	いいえ	?
----	-----	---

今回行った事業が、今後どのような形で続いていくことが望ましいか、残っている課題や改善策について話し合い、政策提言としてまとめるなど、行政関与の観点も含めて、社会的な責任を果たしていく体制などを両者で検討しましたか？

[課題解決のための改善提案] 本当の意味での就労支援にはまだまだたどり着いておらず、これまでの活動を通して見えてきた課題を解決していく必要がある。行政関与は机上のみで終わることなく、ぜひとも現場に入って共に動いてほしい。その中でお互いの役割を認識し成果につながる前向きな活動を続けていきたい。

上記「はい」と答えた合計	0
--------------	---

II. 事業の成果

1. 事業後の受益者とのコミュニケーションと満足度

はい	いいえ	?
----	-----	---

事業終了後、受益者から意見を聴く機会を持ち、この事業を通じて十分な満足を得られたかを確認し、今後の事業につながる良好な関係づくりを行っていますか？

[受益者の満足の声] 障害者ワーカーからの意見は常に聴く機会があり、事業についての満足度は高いという評価が出ている。関係づくりも良好といえる。

2. 事業後の資源提供者とのコミュニケーションと満足度

はい	いいえ	?
----	-----	---

事業終了後、報告書や決算書などを作成し、納税者を含む資源提供者への積極的な情報の提供や公開を行い、また、意見を聴く機会を持ち、事業の結果に十分な満足を得られたかを確認し、今後の事業につながる良好な関係づくりを行っていますか？

[資源提供者の満足の声] 情報の提供については行ってはいたが、結果に十分な満足を得られたとは考えにくい。また今後の事業につながる良好な関係づくりについても不安要素がある。

3. 人々の自立性の向上

はい	いいえ	?
----	-----	---

この事業を通じて、地域の人々が、地域や社会の課題を理解し、自立した市民として、解決のために自発的に行動できるようになりましたか？

4. 新たなネットワーク

はい	いいえ	?
----	-----	---

この事業を通じて、市民や関係する団体、行政の新しいつながりが生まれ、地域に新たなネットワークが出来てきましたか？

5. 地域や社会に与えたインパクト

はい	いいえ	?
----	-----	---

事業を実施することにより、期待された影響[課題解決・社会変革]を、地域や社会にもたらすことができましたか？

[事業が地域や社会に与えた影響] 障害者の在宅就労という新しい働き方の可能性を求めるこの取り組みは、全国的においても先進事例として評価をされている。国の研究会、他自治体への情報提供を行うなど与えたインパクトは大きいと考えている。

上記「はい」と答えた合計	3
--------------	---

Ⅲ. 実施の結果

1. 協働意識の醸成

はい	いいえ	？
----	-----	---

事業を通じて、事業関係者（行政・市民）の間で、協働への理解が深まり、効果を実感する人が増え、今後、積極的に協働という手法を事業に取り入れ、実施しようという機運が生まれてきましたか？

2. 協働の満足度

はい	いいえ	？
----	-----	---

事業を通じて、事業に関わった人々（行政・市民）は、単独で事業を行った場合よりも、協働で進めたことでより大きな効果を得たと実感し、十分な満足を得ることができましたか？

3. 協働のコストの分担

はい	いいえ	？
----	-----	---

事業を通じて、行政側、市民側、あるいは一部の関係者に、費用、労力・時間等、ある面での負担感が生じたとき、その負担に対する配慮ができていましたか？

[生じた負担感] やはりマンパワー的に不足する点が多かった。障害者のフォローに対して、予想できない状況が発生する場合も多かった。

4. 今後の協働の改善

はい	いいえ	？
----	-----	---

この事業を通じて得た、協働事業を行う際の関係づくり、資源(人・物・予算・情報)調達、役割分担、連携等の課題を抽出し、両者で改善を考え、互いに今後の協働事業に活用していきますか？

[改善ポイント]

事業の本質となる価値観を共有し、役割分担を明確にすること。

5. 結果の公開と説明責任

はい	いいえ	？
----	-----	---

この事業の結果や成果を自己評価や当事者以外の評価によって明らかにし、今後、同じような協働事業の企画・実施にあたっての改善のヒントにするために、地域や社会に対して積極的に情報を公開していきますか？

上記「はい」と答えた合計	3
--------------	---